

【今次政変の背景】

独立以来、資源乏しく経済基盤は脆弱。05年の「チューリップ革命」により就任したバキエフ大統領は、強権的統治及び親族・側近登用を強化し、汚職が蔓延。世界金融危機による経済低迷、最近の公共料金値上げにより、国民生活は困窮。国民の不満が頂点に達し、反政府運動が高揚。

【経緯】

- 6日、キルギス北西部タラス州において数千人規模の反政府集会、同州庁舎の一時占拠が発生。反政府運動がキルギス全土へ拡大。
- 7日、首都ビシュケクで数千人規模の反政府集会、反政府デモ隊と治安部隊の衝突が発生。バキエフ大統領が非常事態宣言を発令。政変による死者84名、負傷者千名以上(17日保健省発表)。
- 8日、オウンバエウア社会民主党党首(元外相)を首班とする暫定政府が発足。
- 南部ジャラパードへ逃れた「バ」大統領は、辞任拒否を表明。
- 15日、「バ」大統領は、辞任を受入れ、家族を伴いカザフスタン南部のタラスへ出国。右出国は、カザフスタン(OSCE議長国)、米、露、OSCEの仲介により暫定政府と「バ」大統領が合意に至ったもの。

【今後の注目点】

- オウンバエウア代表は、3ヶ月後に憲法改正、さらに3ヶ月後に民主的な大統領選挙、議会選挙を実施する意向を表明。
- 暫定政府が、「バ」政権打倒後も団結を維持できるか、財政難の下で経済の立て直しを図れるかが今後の安定化の鍵。



バキエフ
大統領
オウンバエウア代表

91年、ソ連崩壊により独立。人口550万人(2009年国連人口基金)、面積約19万8500km²(日本の約半分)、一人当たりGDP:950.5米ドル(2008年:IMF)。米は、01年12月、アフガニスタン作戦のためにビシュケク近郊のマナス空港に空軍基地(09年6月より「中継輸送センター」)を設置。ロシアは03年10月、ビシュケク近郊のカトに空軍基地を設置。

【我が国の対応】

- 7日、在キルギス日本大使館に緊急対策本部(本部長:丸尾駐キルギス大使)、外務本省に連絡室を設置(室長:谷崎欧州局長)。渡航情報(スポット情報)を发出。
- 8日、外務報道官談話を发出、事態に対する憂慮の念と一刻も早い事態収拾に対する期待を表明。在留邦人約130人の無事を確認。
- 16日、外務報道官談話を发出、大統領出国による情勢の正常化と合法的かつ平和的プロセスによる民主主義及び憲法秩序の回復に対する期待を表明。

【主要国の対応】

- 7日、プーチン露首相はオウンバエウアと電話会談し、支援を表明。同日、カト露空軍基地に約150名の空挺部隊を派遣。
- 14日、ブレイク米国務次官補が現地入りし、支援を表明。(※16日、暫定政府はマナス中継輸送センターについて、当面は米空軍による現状の使用を認める立場。)